アイデア満載！下関市内日の放牧

下関農林事務所畜産部
平成20年10月8日

平成20年９月25日、下関市内日地区宮本集落の遊休農地約50aの雑草を解消し、獣害を防止するために菊川町の畜産農家の牛６頭が放牧されました。

昨年実施した同地区の中村集落での実証展示放牧が好評であったため、宮本集落より内日土地改良区に相談があり、放牧を実施することになりました。

放牧場は集落の総代や遊休農地の所有者のアイデアに満ちており、給水槽はバスタブと竹、また四角い板で作った桶に入排水のホースを取り付け、電牧柱は竹や結束バンド等を用いて安価に作製されています。この牛たちは放牧に馴れたプロで、猛烈な勢いで雑草を食んでいます。

山口型放牧は耕作放棄地の解消とともに、獣害防止の効果があるだけでなく、雑草という貴重な草資源の活用により、環境に優しく、省力・低コストにつながる農・耕地の利用方法として、農林事務所では強力に推進しています。

板で作った給水槽

竹製の電牧柱